《ミニファイル》「マイクロ・ナノの分析化学」ご執筆にあたって

日本分析化学会「ぶんせき」編集委員会

分析に必要な要素技術である、混合、反応、抽出、分離、検出などをマイクロ・ナノ空間で行うことで、分析装置やシステムの小型化や集積化が達成します。その結果、試料量の削減、多検体の同時分析、オンサイト分析などが実現するため、分析法の利用が大幅に広がります。また、空間の大きさを小さくすることで、存在する分子の数が少なくなるため、分子自身の性質や界面の影響が顕在化し、個々の分子のふるまいの解析につながると期待されます。今回のミニファイルでは、基礎研究から応用研究、さらには商品化などまで、様々な分野での利用や理解の進む、マイクロ・ナノ空間を利用した分析手法に関して、その作製法や要素技術、応用研究などを取り上げていきます。

以上のような趣旨でご執筆いただきたく、お願い申し上げる次第です。

執筆頂く内容の案 執筆者（内諾済）

１月　概論・基礎　火原先生（東北大）
２月　チップ加工　許 岩 先生（大阪公立大学大学院工学研究科）
３月　表面加工（マイクロ・ナノ構造形成）梅村知也先生（東京薬科大学）
４月　ナノ材料（液滴）遠藤　達郎先生（大阪公立大学大学院工学研究科）
５月　分離計測　高貝 慶隆先生（福島大学）
６月　細胞　　田中　陽先生（理化学研究所）
７月　光検出　調整中
８月　検出（電気化学）　鈴木雅登先生（兵庫県立大学大学院理学研究科）
9月　ナノポア　調整中
10月　応用（基礎医学）小川覚之先生（獨協医科大学）
11月　応用（地球化学）平田岳史先生（東京大学）
12月　実用化・展望　渡慶次先生（北大）